

第 14 回 JGS Webinar

宝石・鉱石切手発行記念ウェビナー第五弾

テーマ：「国石ヒスイ」

日 時：令和 4 年 5 月 12 日 14：00～15：30

会 費：無料（Zoom ウェビナー）

定 員：特になし

講 師：宮島 宏（みやじま ひろし）氏

元・フォッサマグナミュージアム館長、

糸魚川ジオパーク観光ガイド、糸魚川市議会議員

講師略歴

1957年東京都目黒区に生まれ、雑木林や田畑が残る世田谷区船橋町に暮らす。中国大連から引き揚げた父の持っていた化石や、舗装用砕石の石灰岩に含まれる化石、小学校の燃料用の石炭中の琥珀などの影響で鉱物や化石に興味を持つ。

小学生の時に国立科学博物館の鉱物採集会で櫻井欽一先生にお会いした。

中学生の時に櫻井先生が主宰する無名会に入会し、砂川一郎先生、加藤昭先生、松原聰先生らの話を聞くことができた。

東京理科大学理学部化学科を中退後、信州大学理学部地質学科を経て東北大学大学院理学研究科地学専攻に進学。大学院では糸魚川のヒスイを1939年に最初に研究した河野義礼先生の弟子青木謙一郎教授と蟹澤聰史教授の指導を受けた。

東京都立学校の教諭を経て1991年に糸魚川市教育委員会に転職し、2019年までフォッサマグナミュージアムに勤務。

糸魚川信用組合で地域振興を担当した後、2021年4月の糸魚川市議会選挙に立候補し当選。

ヒスイ輝石は、産出する場所が極めて限られ、プレートの沈み込み帯特有の低温高压変成作用で生成する鉱物である。主としてヒスイ輝石からなる岩石（ヒスイ輝石岩）がいわゆるヒスイであるが、ヒスイ輝石と類縁のオンファス輝石が共存することもある。ヒスイの産地は世界でも限られており、ミャンマー、グアテマラ、ロシア、カザフスタンなど約 10 ヶ所にすぎない。

新潟県糸魚川市の河川や海岸から、ヒスイの礫が見つかる。今から約 5000 年前の縄文人は、ヒスイを拾って研磨・穿孔し、世界最古級のヒスイ文化を誕生させた。ヒスイは、当時の人々に何を語りかけたのか。

5 億年以上の歴史を刻む糸魚川の山々。石にも人と同じように名前と年齢があり、また、石はさまざまな生い立ちを語ってくれる。海岸には、山々から運ばれてきた、さまざまな時代のたくさんの種類の石がある。

糸魚川市の石の博物館「フォッサマグナミュージアム」の元・名物館長で「ジオパーク」という言葉の生みの親でもある宮島宏氏。同ミュージアム開設のため学芸員に採用され、1991 年に糸魚川に移住。現館長の竹之内耕さんと、展示・構成を検討し、展示品・文献などをゼロから収集した。

フォッサマグナミュージアムでのヒスイの研究の過程で、ヒスイの色の原因となっている鉱物や元素の関係を明らかにした他、糸魚川産のヒスイから新鉱物（糸魚川石・蓮華石・松原石）など多種のストロンチウム鉱物を発見した。また、従来はヒスイは固相反応で生成したとされていたが、熱水から生じたヒスイもあることを指摘した。

2016（平成 28）年 9 月、日本鉱物科学会が「国石」を選定した際には、日本人との関わりの深さと広さ、知名度、地質との関連、持続可能性など国石としてのヒスイの妥当性をプレゼンターとして訴え、投票の結果ヒスイが選定された。

以上